

株式会社ミュージックバード 第56回番組審議会議事録

1. 開催日時 平成24年11月12日(月) 14時00分～15時30分

2. 開催場所 TOKYO FM 10階 大会議室

3. 出席者

◆番組審議会委員

- ・松尾 修吾 副委員長
- ・福本 ゆみ 委員
- ・中西 健夫 委員
- ・佐野 光徳 委員
- ・村井 裕弥 委員

(ご欠席：矢内 廣 委員長)

◆放送局

- ・一瀬 社長
- ・江川 常務
- ・雄谷 常務
- ・江森 技師長
- ・関田 監査役
- ・岩崎 プロデューサー
- ・田中 プロデューサー
- ・事務局 倉田

4. 議事概要

今回は、Cross Culture チャンネルの番組『アナログ・サウンド大爆発！～オレの音ミゾをほじっておくれ』について試聴及び審議が行われた。

放送：11月3日<土>22:00-23:00

出演：田中伊佐資（オーディオリライター）、ゲスト：武田清一（アナログレコードコレクター）、ティム・デ・パラビチーニ（英国 EAR 主宰者）

- ・10月6日に有楽町交通会館で行われたハイエンドオーディオショー、ヨシノトレーディングブースにおいて公開録音を行った回である。普通の会議室ではあったものの、高性能のオーディオ機器によって、非常に良い音を出すことができた。来場者も多く、大変意義のある公開録音となった。
ということが放送局側から説明され、これに対し委員からは、
- ・この番組は、出演者である田中氏が自身の持っているレコードをかけるのではなく、ゲストが持ってきたレコードをかけている。それは音を通しての新たな出会いや化学反応を期待しているからではないだろうか。
- ・会場にも参加いただいた委員からは、例えば「スタビライザー（レコードの上に乗せる重り）がなくてもレコードは回る。しかし、これに乗せることで音がぎゅっと引き締まり、低音の締まりがさらによくなり、力強さが増し、音楽の推進力が増すといわれている。スタジオで聴いて音の判別がつくのはわかるが、自分の家（実際の放送）で聴いていても違いがわかったことに驚いた。」との意見があった。
- ・この番組のリスナーとLP世代は、「音楽を一生懸命に聴く」という点で共通している。
- ・他の委員からも、最近、「アナログレコードを聴きたい」という欲求が高まっている。しかし、みんなでレコードを持ち寄って聴こうとしても“聴ける場所”がない。この世代が落ち着きはじめたとき、何かアプローチはできないだろうか。多くの人がいまだに当時のレコードを持っている傾向を見ると、“聴く場所作り”が今後、大切なことになってくるのではないだろう。あの時代の良さをどこかで引き戻す必要がある。

等の意見・助言があった。